

主体的・対話的で深い学びのポイント

教師の手本の観察に加え、タブレット等のICTを適切に活用することで生徒の理解が深まり、意見交換が活発となるとともに、技能が身に付けやすくなる。

ICT活用のポイント

動画視聴を行うことで、生徒が自分自身の介助の様子について、繰り返し観察することができ、課題の明確化に繋がる。

使用するICT機器	プロジェクター、PC、タブレット、デジタルカメラ等	使用するアプリ・クラウドサービス等	動画視聴ソフト、動画遅延アプリ等
クラウドの活用	☐ 教材の配布・回収等 ☒ 資料等の共有 ☒ 生徒の学習状況の把握 ☐ その他（ ）		

本時のねらい

車いすの移動・移乗の介助を身に付け、その際の適切な声かけについて考察することができる。

	主な学習活動 (学習場面)	I C T の活用・留意点等	評価
導入	○本時の目標を確認する 一斉 ○前時の内容を振り返る	 教室の大型モニターに、模範映像を映し、本時の目標を確認する。 指針2  車いすの部位や操作について確認する。 	ICT機器 
展開	○車いすの移動・移乗の介助の手本を見る 一斉 協働 ○車いすの移動・移乗に関する実習を行う 協働 ○フォームの確認や声かけについて確認する 協働	 数回、手本を示した後、グループごとにタブレットを配布する。 配布したタブレットには、模範映像が保存されており、繰り返し視聴できる。 ICT機器   【知】車いすの移動・移乗の介助について理解し、安心・安全に配慮した声かけができる。 指針3  グループ内で撮影映像を確認し、個々の課題を明確にする。 ここで評価 	<評価C「努力を要する」と判断した生徒への手立て> 対応の際に出てきた問題点を中心に振り返らせ、その解決のためには具体的に何が必要かを考えさせる。
終末	○本時の振り返り 個別	・ふりかえりシート記入 指針4	

※ 表内の指針1～6は、「ICT活用授業指針」8ページにあるICT活用授業の目指す姿1～6を表しています。
※ ICTの導入が目的化しないように、ICTを活用する場面と活用しない場面を効果的に組み合わせることが重要です。
※ 評価の観点 【知】＝知識・技能 【思】＝思考・判断・表現 【態】＝主体的に学習に取り組む態度